

紀要『PRIME』の執筆要項

1. 使用言語

使用言語については、特に制限はしない。ただし、印刷にあたり特別な技術、その他の事情を有する言語については、事前に研究所に届けること。

2. 本文および脚注・注

- 1) 本文は原則として横書きとして、英語の場合はダブルスペースで記述すること。
- 2) 脚注は、本文中の該当箇所の右肩に一連番号を打ち、注そのものは本文末に記入すること。

3. 図表

図表は、著者の作成したものをそのまま印刷するので、一枚ずつ別々の白地の用紙に図表を作成して提出すること。

4. 参考文献

参考文献は、原則として以下の要領で記載する。論文名については、日本（韓国・中国）語の場合は一重括弧を、欧文の場合は二重カンマを用いる。書名・誌名については、日本（韓国・中国）語の場合は二重括弧を、欧文の場合はタイトルにイタリック体を用いる。なお、外国語文献については、なるべく出版者の前に出版地を記すこと。

①単（共）著の場合

著者（编者）名、書名、（シリーズ名、巻、版など）、出版社、発行年（西暦）

②訳本の場合

原著者名、原書名、（シリーズ名、巻、版など）、出版社、発行年（西暦）、訳者名、訳本名、（シリーズ名、巻、版など）、出版社、発行年（西暦）

③雑誌論文の場合

著者名、論文題名、雑誌名、巻（号）、発行年（西暦）、（ページ）

④収録論文の場合

著者名、論文題名、编者名、書名、（シリーズ名、巻、版など）、出版社、発行年（西暦）、（ページ）

5. 原稿提出の際の注意事項

- 1) 原稿は、原則としてワープロ打ちとし、A4サイズを標準とする。
- 2) 原稿が日本語の場合には、英語の表題、著者名をつけて提出すること。

6. 審査

執筆者が査読審査を必要とした場合、「論文」および「研究ノート」の 카테고リーに限って、『PRIME』編集委員会が決めた査読者（「論文」は2名、「研究ノート」は1名）による査読審査を行う。審査結果は10月中旬～下旬ごろに通知する。採用された際には、論文末尾にて「査読審査後掲載決定（受理日 年 月 日）」と審査を経た旨を明記する。採否を問わず原稿は返却しない。

7. 校正

著者による校正は、再校までとする。校正時の大幅な追加・修正は認めない。

8. その他

原稿記載順序は、研究所に一任する。なお、編集の都合により加除補正または訂正を依頼することがある。